

基本情報I(児童自立支援施設版)

1	施設名	沖縄県立若夏学院		
2	(1)運営主体(法人名等):	沖縄県		
	(2)設置主体:	沖縄県		
3	所在地:	那覇市首里大名町3-112		
4	施設長氏名	大城 順次		
5	連絡先:			
	T e l	098-885-5453	F a x	098-886-6144
	Eメール	xx030511@pref.okinawa.lg.jp	URL	http://www.pref.okinawa.jp/site/kodomo/wakanatsu/shido/gaiyou/wakanatuhptop.html

6 同一運営主体が同じ敷地内で連携して実施している主な福祉・医療サービスを、利用者からみて上位5つ以内(例.特別養護老人ホーム、ショートステイ、デイサービスなど、評価対象外事業を含む。)を記載してください。

- (1) -
 (2) -
 (3) -
 (4) -
 (5) -

7 施設の形態

※該当するものに○をつけてください。

- (1) 寮舎の運営形態について: ①夫婦制() ②交代制(○) ③並立制()
- (2) 学校教育の形態について:
 ア:小学校 ①分校() ②分教室(○) ③本校() ④未導入()
 イ:中学校 ①分校(○) ②分教室() ③本校() ④未導入()
- (3) 通所部実施について: ①有() ②無(○)

8 定員および現在の利用者

定員: (30)名

利用者: (19)名

※内訳は3ページのとおり

9 職員の状況

(1) 職員数

区分	男性	女性	計
常勤職員数	15	11	26
非常勤職員数	16	12	28
計	31	23	54

(非常勤職員の常勤換算) (18.8)人

計算式:
 (非常勤職員のそれぞれの勤務延べ時間数の総数
 ÷当該事業所の常勤職員が勤務すべき時間数)

(2) 専門職の人数

専門職の名称	人数	専門職の名称	人数
児童自立支援専門員	16	用務員	1
児童自立支援員	4	運転士	1
児童生活支援員	3	教頭	1
個別対応職員	1	教諭	11
心理担当職員	2	調理師	6
家庭支援専門相談員	1		

有資格者数 ※資格は、履歴書に記載されている名称を記載して下さい。

資格の名称	人数	資格の名称	人数
社会福祉士	8	臨床心理士	1
社会福祉主事	3	公認心理士	1
精神保健福祉士	2	教諭(小・中・高)	17

(3) 非常勤職員の勤務形態と業務内容

※職員種別は、パート、アルバイト、派遣、契約等、施設で通常使用している呼称で記入してください。

職員種別	人数	勤務形態	業務内容
		(勤務時間、シフト)	
児童自立支援員	4	月16日勤務【主なシフト】 8:30~17:15 11:00~19:45 16:30~翌10:00(2H休憩)	起居を共にした生活指導
児童生活支援員	3	月16日勤務 8:15~17:00	日用品準備や通院引率等、日常生活における支援
個別対応職員	1	月16日勤務 8:30~17:15	被虐待児童の個別対応等
家庭支援専門相談員	1	月16日勤務 8:30~17:15	入退所に係る家庭調整等
心理療法専門員	1	月16日勤務 8:30~17:15	心理的ケア・面接(性教育)等
生活指導専門員	9	月10日勤務 19:30~翌9:30(2H休憩)	夜間帯の児童掌握や生活指導
用務員	1	月~木 8:30~17:15 金 8:30~15:00	農場管理、施設の修繕

(4) 前年度採用・退職の状況

	常勤	非常勤	計
採用	4	12	16
退職	0	7	7

(5) 常勤職員の平均年齢

(38.5)歳

(6) 常勤職員の平均在職年数

(2.2)年

(※現職場での在職年数とする)

(7) 直接支援に携わっている職員(非常勤は常勤換算)1人当たりの利用者数

(0.5)人

(計算式:定員÷直接支援に携わっている職員数)

10 平面図等施設の状況がわかるものを添付

11 定員及び現在の利用者 内訳 <2020(令和2)年11月1日現在>

※下記の利用者の状況が分かる表を添付するか、下の空白部分に書き込んでください。

(1) 入所定員 (30)人

(2) 居室数 男子寮 2寮 女子寮 1寮 合計3寮

一人部屋	(2)室	三人部屋	(0)室
二人部屋	(2)室	四人部屋	(2)室

※1寮の居室数

(3) 現在の利用者数 (19)人

	男子(人)	女子(人)	合計(人)
3歳未満	0	0	0
3歳以上6歳未満	0	0	0
6歳以上9歳未満	0	0	0
9歳以上12歳未満	0	0	0
12歳以上15歳未満	8	2	10
15歳以上18歳未満	6	3	9
18歳以上	0	0	0
計	14	5	19

※必要に応じて、障害の種類別・程度別の人数など、当該施設の利用者状況がわかる表を巻末に添付してください。

(4) 入所理由別利用者数((3)の内訳)

暴行非行	1 人	5 %
窃盗	4 人	21 %
家出・浮浪・徘徊性非行、不良交友	4 人	21 %
家庭内非行	2 人	11 %
施設不適合	—	—
生活指導を要するもの	—	—
性的問題行動	7 人	37 %
その他	1 人	5 %
合 計	19 人	100 %

(5) 多様な実施サービス

	定員(人)	前年度延べ利用者数	備考
一時保護		4 人	
ショートステイ※	—	—	
トワイライトステイ※	—	—	
その他()	—	—	

※ショートステイ、トワイライトステイに関して、各々定員を設定していない場合には、どちらかにまとめて記入してください。(延べ利用者数に関しては、可能な限り各々で記入してください。)

基本情報Ⅱ

1 理念・方針について

事業者が大切にしている考え(事業者の理念・ビジョン・使命など)のうち、特に重要なもの(上位5つ程度)を簡潔に記述してください。

- 1) 素直な心を育てる。
- 2) 感謝の心を育てる。
- 3) 忍耐の心を育てる。
- 4) 働く心を育てる。
- 5) 努力する心を育てる。

2 サービス提供の考え方について記述してください。

児童自立支援施設におけるサービスとは、施設入所児童やその保護者や家族への自立支援計画に基づく支援の実施、また、施設の専門性を生かした地域における相談援助の実施であると考えます。支援のベースには、児童の最善の利益の追求が必要である。

3 期待する職員像について

- (1) 職員に求めている人材像や役割について記述してください。

「WITHの精神」により、共感・共汗・共学・共育等を行い、児童も職員も共に成長していくことに喜びを感じる人材が必要である。

- (2) 職員に期待すること(職員に持って欲しい使命感)について記述してください。

児童自立支援施設で生活する児童やその保護者や家族の心情を、職員自身がその心情に寄り添い、自らが子どもの立場にたって考え支援する姿勢が求められる。

4 現在のサービス提供能力と利用者数について(以下のどれかに○をつけてください。)

- 1) サービスを希望しながら待っている人(事業所に登録している待機者)がかなりいる
- 2) ほぼサービス提供能力に見合った利用者数で、待っている人はほとんどいない

(ほぼ定員を満たしている場合)

- 3) サービス提供能力に余力があり、希望者があれば受け入れたい

- 4) その他(児童相談所からの措置。入所調整に適切に対応している。)

- 5 3年後の見通しについて(以下の〔契約による利用〕、〔措置など契約以外による利用〕のどちらか一つに○をつけた上で教えてください。)

〔契約による利用〕

- 1) 利用者数の増加を見込んでサービス提供能力を拡大する計画がある
- 2) サービス提供能力を拡大する計画はないが、ほぼ現在のサービス提供能力に見合う利用者数は維持できると思う
- 3) 現在の利用者数を維持するのは経営改善、サービス改善をしていかないとかなり難しい情勢になっているのではないかと思う
- 4) その他 ()

〔措置など契約以外による利用〕

- 1) 施設規模の拡大または新たなサービス提供を行う計画がある
- 2) 現在の施設規模、サービス提供能力を維持する方向で考えている
- 3) 現在のサービス提供能力を維持するのは、経営改善・サービス改善をしていかないとかなり 難しい情勢になっているのではないかと思う
- 4) その他 ()

- 6 評価対象のサービス事業に関して事業者として力を入れて取り組んでいる点を、人的サービス面と設備面に分けて、重要な順に各3つ以内で記述してください。

〈人的サービス面〉

- 1) 自立支援計画の作成と計画に基づく支援、計画見直しの実施。
- 2) 親子関係再構築のための児童及び保護者への支援。
- 3) 入所児童の家庭復帰を支援するため、その家族への支援やアフターケア等の実施。

〈設備・環境面〉

- 1) 子どもが安心して過ごせる環境整備。
- 2) 動物や植物に囲まれる環境整備。

- 7 当該事業の開始から現在までの重要な変遷(制度改正に基づくもの含む)記載してください。

- 1) 開始時期 明治 44 年 8 月
- 2) 重要な変遷
明治44年8月 当時の感化法により私立球陽学園が創設
昭和29年4月 琉球政府立沖縄実務学園となる
昭和47年5月 本土復帰に伴い、沖縄県立実務学園となる
平成10年4月 児童福祉法改正に伴い、教護院から児童自立支援施設となり、
名称が若夏学院となる
平成13年4月 那覇市立城北中学校若夏分校設置
平成14年4月 那覇市立大名小学校若夏分教室設置

- 8 経営に影響を与えていると考えている事業環境の変化を記述(制度改正を含む)してください。

児童の抱える課題は、自己肯定感の低さや認知のゆがみなど、これまでの養育環境が影響している面が大きい。また、知的障害や発達障害、被虐待の影響と思われる行動、性的な問題を抱える児童の入所が非常に増加してきている。

9 評価対象としているサービス事業を維持・向上させていくために、これから何をしていかなければならないかについて、重要な順に3つ以内で記述してください。

- 1) 体系的な人材育成及び研修の確立
- 2) 児童自立施設職員としての専門性の向上
- 3) 現状分析と適正な中長期計画の策定

10 評価を実施するにあたり、評価機関に知っていて欲しいこと(経営層が考えていること、利用者の状況、職員の状況など)を自由にご記入ください。

(1) 会計年度任用職員(児童自立支援員)を加えた、6人ローテーション体制について

今年度、当院は3名の定数減があり、それを補う形で会計年度任用職員(児童自立支援員)4名を配置し、各寮(男子寮2寮、女子寮1寮)6人のローテーション勤務の内、1人ないし2人の会計年度任用職員(児童自立支援員)を加えた、6人ローテーション勤務体制で寮運営を実施することとなった。採用できた4人の会計年度任用職員(児童自立支援員)はいずれも当院や一時保護所において、臨任職員や他の会計年度任用職員の経験があり、児童の支援指導の経験値がある職員を採用できたため、寮運営をなんとか維持できる状況となっている。今年度は会計年度任用職員(児童自立支援員)として児童の支援指導の経験のある者を採用することができたが、次年度もこの4人が契約を更新してもらえる保証はなく、次年度以降も専門性を確保した寮運営ができるのか、非常に不確実な状況となっている。この点は、直接的に寮運営に影響を及ぼすため重要な課題である。やはり県として、責任を持った体制を、言わずもがなであるが、正職員で寮運営を図る体制に戻す必要があるものとする。

(2) 男子寮の開寮・閉寮について

今年度、男子寮については常時2寮体制から、1寮については児童数の変動(男子児童10名以下1寮、11名以上2寮)により開寮・閉寮することとなった。実情としては、今年度スタート当初から男子児童11名以上が在籍していたため例年同様に男子寮2寮体制でスタートすることができた。今後、寮を開閉した場合、その都度、男子児童は寮を移動することになり、安定した生活環境を提供することができず、寮運営が不安定化し、そのことが児童の支援指導に悪影響を及ぼすことが懸念される。

(3) 児童自立支援専門員の選考採用試験の継続について

近年、児童自立支援施設に入所する児童は、根底に被虐待経験や発達障害を有する児童の割合が高くなり、特別な支援を要する児童が増えており、より専門的な支援を提供する必要性が増している。これに対応するために心理職の配置や精神科医の配置は欠かせないが、何より日常の生活場面でこれらの児童を支援指導するのは寮職員であり寮職員の専門性の確保と安定した指導力の確保が不可欠である。このことは、安定した寮運営、ひいては児童自立支援施設の安定的運営にも直結する重要なポイントである。

しかしながら、3年で異動する寮職員の現状においては、寮職員の専門性や指導力にばらつきがあるため如何にこのばらつきを最小限度にとどめ、安定した寮運営を確保するかが課題となっている。また上記(1)、(2)の状況を踏まえると、ますます安定した寮運営、施設運営が難しくなっている。

このような状況を克服し、寮職員の専門性の確保、即戦力としての寮職員の確保、将来の児童自立支援施設の幹部職員の育成の取組み、そして、児童自立支援施設の安定的運営のために、現在、実施している児童自立支援専門員の選考採用試験の継続実施が必要である。

11 実習生の受け入れ状況について

前年度の実習生受け入れ人数 (18)人

【内訳】

実習生の紹介元	受け入れ人数
国立武蔵野学院附属児童自立支援専門員養成所	1
沖縄国際大学総合文化学部人間福祉学科(現場体験実習)	4
琉球大学人文社会学部(相談援助実習)	2
沖縄大学(相談援助実習)	1
沖縄国際大学(相談援助実習)	3
ソーシャルワーク専門学校(社会福祉現場実習)	2
沖縄こども専門学校(保育実習)	3

ソーシャルワーク専門学校(保育実習)	2
--------------------	---